

前山遺跡

～遠く祖先から連綿と受け継がれてきた
特徴ある石組の祭祀遺跡～

目次

- おすすめポイント
- 説明
- 現地写真
- アクセス

資料番号
K18

初版：2025.11.24



1. おすすめポイント

★独特的石組、篤い信仰が伺われます

現在も信仰に基づく改変が行われているように
見受けられます。

★岩長比咩（いわながひめ）神社にも是非！

遺跡がある丘の麓、ここでも独特的石積みが見られ
ます。「岩長比咩」の名にピッタリ！

2. 説明

「八木敏乗, 岡山の祭祀遺跡 (岡山文庫 145). 日本文教出版, 1990, p 122~123」より下記枠内引用させて頂きます。

前山

倉敷市福江字江上

倉敷市児島田加山(一六〇番地)、種松山(二五八番地)、松楠山(一三五番地)、これらの山々はそれぞれ隣接しながら独立した山塊で、二等辺三角形に位置を占め、松楠山がその頂点を占める位置にある。

松楠山から北東へ延びる支脈の先端部が長く舌状をした丘頂(約六〇番地)に、前山遺跡がある。

明治四十四年、下津井電鉄が児島味野から茶屋町間の線路敷設工事に着手し、前記舌状丘の最先端の一部を切り落とした際、その地点から数々の弥生中期の出土品があり、その中から数点の土器が選び出された。

その後、旧児島市管内から出土した、弥生期の土器を括して収録し、「弥生式土器」と銘して、児島市教育委員会がこれを発刊(一九六七年)したものを見た。最近、たまたま手にして、この

石材の形と大きさに特徴を持ち、この遺跡のよう、自然転石のしかも、大小不ぞろいで、巨石を使用している事は無く、ほぼ大きさは均一で、破碎面を多く持つた、ラグビー・ボールを少し大きくした位の多角塊のものを使用するを一般例とする。

以上からすれば、この前山遺跡は異類の造形式というべきで、全く無雑作に積んだ組み石であるが、何らかの方則性が感じられ、むしろ、一般神座より一時代古い時代の組み石の手法を想わせられる。

この遺跡に接して、もう一基の組み石遺跡があり、一見、同類、同形、同大で、これも祭祀を目的として築かれた神座であろう。がよく見れば、前記、前山遺跡と異なり、石の組み方、石の大きさ、装飾性等、からして技巧と時代の

福江周辺域の早い時代からの文化の定着を知り、一般的には、古代集落跡に付帯し勝ちな、古代の祭祀遺跡の潜在を憶測しながら調べる間、偶然、この遺跡の所在を確認したものである。

倉敷市の林や福江地域は、古い時代には、児島湾から更に入海して、藤戸、彦崎を首部として内湾の広い内湾を形成、その立地条件の恵みを得て、繩文期から、粒江の磯の森、船元、船津、彦崎の諸貝塚、及び福江北東に隣接する曾原、次いで林の戸(津田山)、南の向木見遺跡等、弥生期の多くの古墳、貝塚、包舎、撒布地等々数多く連なり、この周辺地域一帯に早い時期から、文化の萌芽のあつた模様を語っている。

祭祀遺跡は、その造形において、同じ形のものは全く見られないとした中で、この前山遺跡は、その形が非常に珍しい遺跡である。この例の少ない遺跡の形から、最も似通つた形の遺跡の種類を選べば、それは積石塚が最も近いが、一般例の積石塚の場合、その使用する

流れがうかがわれ、前者に較べて、年代的にはかなり下がるようと思える。

前記二基から、西へ五、六メートル離れて、地高約一メートルばかりの角丸、断面ほぼ四角形の単石柱が立ち、この石柱を円形内に納めた環状列石(径二・六メートル)が認められる。

以上、これら三者は、古い時代からこの丘麓住民の精神的支えとして、深く崇め祀られてきた神々の座であったであろう。

いま、丘頂に眠る三基の遺跡は、木山神社、荒神様、山ノ神様で親しまれ、遠く祖先から連綿と受け継がれてきた、篤い信仰の深さを、注連や直新しい供え物が語っている。

※管理人記

八木氏が書籍に掲載している写真と管理人が撮影した写真が一致しないことから、八木氏が訪問された時期以降、本磐座を奉斎する麓の人々の手で組み石の改変が行われているように見受けられます。

麓の「岩長比咩神社」の石積みも見るにつけ、麓の人々には“石を組む”文化が根付いているのかもしれません。

磐座が3つのパートに分かれていることは変わりないので、仮に第一磐座、第二磐座、第三磐座と呼称させて頂きます。

3. 現地写真

2020.4.22

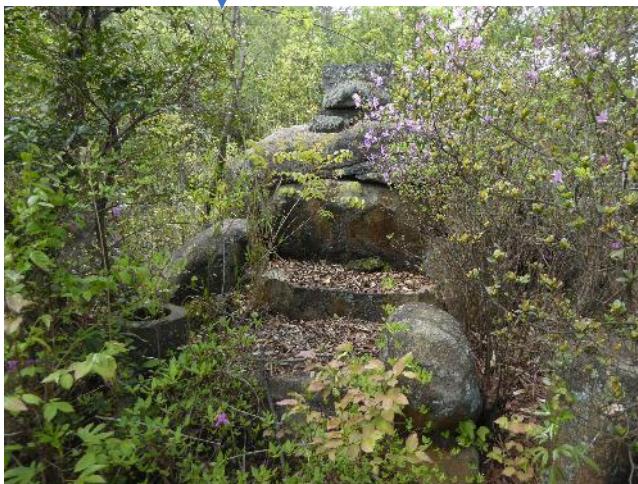


3-1

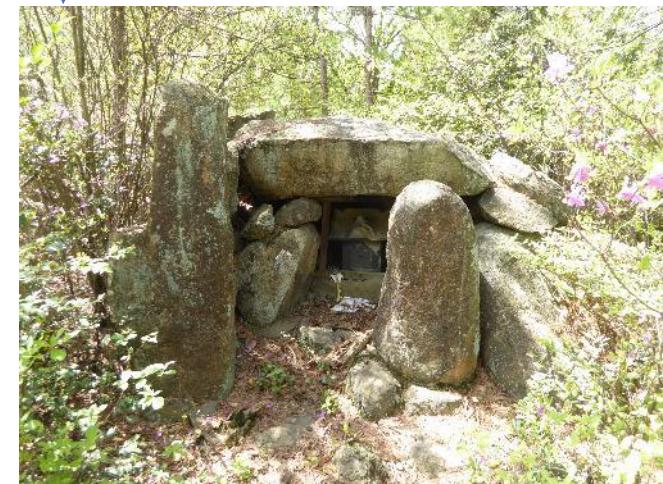
第二磐座

第一磐座と第二磐座は
すぐ隣に座す

第一磐座の内部には祠
が祀られており
第二磐座の頂部には神
社の屋根のような石造
物がのせられているの
が特徴



3-2



3-4



3-3



3-5



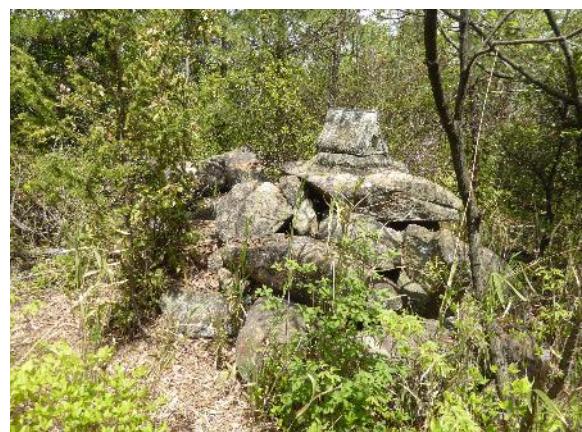
3-6

第三磐座



3-7

第一磐座 左後方より



3-8

第二磐座 左後方より

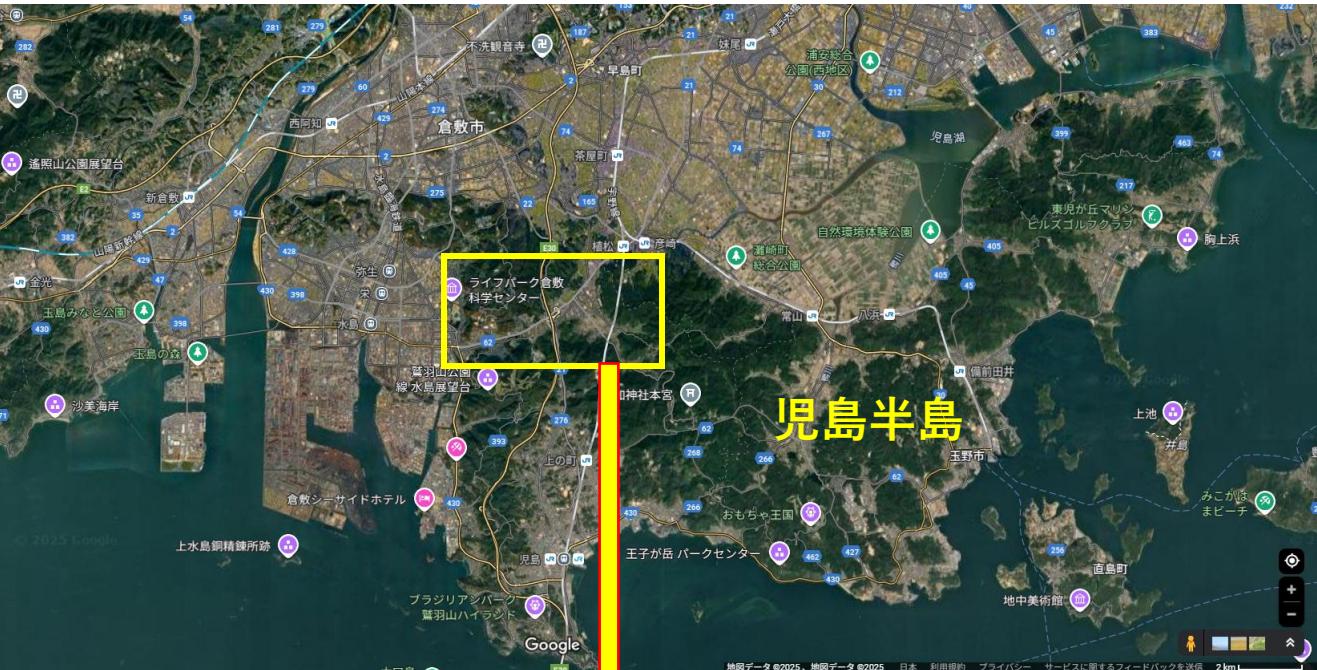


3-9

三基の位置関係 直上より

第一、二磐座の正面は東側

4. アクセス



4-1

Google Mapに黄で追記



4-2

地理院地図に赤で追記

次頁



地理院地図に赤で追記



Google Mapに黄で追記

参考文献

- 1) 八木 便乘. 岡山の祭祀遺跡（岡山文庫145）. 日本文教出版, 1990, 173p.